

山梨北中ブロック交流研究

研究主題 「小中の連携を深め、山梨北ブロックの児童・生徒の指導に生かす」

I 主題設定の理由

山梨北中ブロックの児童・生徒を健全に育てるためには、普段交流の機会の少ない小・中の教職員が共有の活動や話し合いを持ち、教育上の課題を見つけ、より良い解決の方法を探り、連携を深めることが必要だと考える。

本ブロックでは、これまでも同じ地域で学ぶ子どもたちを共に教育するという立場から、共通の教育課題に対して講師を招き、学び合いを行ってきた。その取組を通して、目の前の児童・生徒の指導に生かせる有意義な内容であったと成果を確認し合うことができた。また、小・中の授業参観や研究会についても継続して行ってきたが、児童・生徒の実態の理解が深まると共に、発達段階による特性や各校の特色、学力向上の取組などを交流し合うことができ、その意義を実感できたところである。

今年度も、学習会と授業参観・研究会という交流研究により、本ブロックの児童・生徒理解と小・中連携を深め、各校の指導に活かしていきたいと考え、本主題を設定した。

II 研究の具体的内容

1. 第1回交流研究会（学習会・情報交換会）

(1) 目的 小中の共通する教育課題について専門的な立場からの話を聞き、学習を深め、児童・生徒の指導に役立てる

(2) 日時 令和元年8月7日（水） 13：30～学習会
15：40～情報交換会

(3) 演題 「ワイド液晶ディスプレイ」の活用

(4) 講師 山梨県総合教育センター 情報教育部 指導主事 饗場 浩 先生

(5) 内容 昨年度山梨市内の全小中学校に配備された「ワイド液晶ディスプレイ」が活用できるように、講師を招いて学習会を実施した。ICT 素材の紹介や、授業へ取り入れ方や有用性を学ぶことができた。また、各校1名ずつの代表者による実際の活用の様子の発表を通して、より実践につながる内容を共有することができた。学習会後のアンケートに、ほぼ全員の参加者が「参考になった」と回答する有意義な学習会となった。

情報交換会では、小学校別のグループに分かれ、生徒指導上の情報交換、家庭学習の取組の様子などについて懇談を行った。

2. 第2回交流研究会（中学校授業参観）

(1) 目的 中学校の授業参観を通して生徒の実態や学習活動について知り、情報交換や懇談を通して、小中の連携を強化し今後の教育活動に生かしていく。

(2) 日時 令和元年11月6日（水） 14：00～授業参観
15：05～グループ別研究会

(3) 場所 山梨北中学校

- (4) 内容 山梨北中学校の授業を参観し、生徒の様子、「やまなしスタンダード」の視点を取り入れた授業改善の様子、小中のつながりなどについて情報交換や意見交換を行った。

3. 第3回交流研究会（小学校授業参観）

- (1) 目的 小学校の授業参観を通して児童の実態や学習活動について知り、研究会における情報交換や懇談を通して、小中の連携を強化し今後の教育活動に生かす
- (2) 日時 令和2年2月19日（水） 14：00～授業参観
15：00～研究会
- (3) 場所 日下部小学校・八幡小学校
- (4) 内容 日下部小学校・八幡小学校の授業を参観し、児童の様子、「やまなしスタンダード」の視点を取り入れた授業改善の様子、小中のつながりなどについて情報交換や意見交換を行った。

III 成果と課題

1. 成果

- ・夏季学習会では、ほぼ全員の参加者が「参考になった」とアンケートに回答する有意義な学習会ができた。事前アンケートを行うことで、より参加者のニーズに合った内容の学習会となった。
- ・昨年度教職員アンケート調査で把握した「やまなしスタンダード」の実施状況の実態を、今年度の授業公開の研究テーマとして活かすことで、児童生徒の様子の観察だけでなく、授業改善という共通認識をもって授業を参観できた。
- ・授業の視点を明確にしたことで、授業者の意図がよくわかり、同じ授業を参観した人同士が話し合うことで、研究討議を深めることができた。
- ・小、中の教員が、お互いの授業を参観し合うことで、小中の学習の系統性や、小学校のうちに重点的に指導しておくべきことが明確になり、指導に活かすことができた。

2. 課題

- ・学習会で学んだことを活かし、ICTの活用を進めていきたいが、設備や機器の環境整備が不十分な学校がほとんどである。タブレット増や無線LAN整備等が必要である。
- ・授業公開では、複数クラスを参観した場合、授業ごとのグループ討議で意見を出しにくい部分があった。小規模校では参観学級の調整をすると、グループ討議が成立しなくなってしまう。公開する側の負担も考えて、（小学校も）1校ごとの公開にするか、公開する学級数を絞ってさらに参加しやすい研究会ができるように検討したい。
- ・小グループでの話し合いで研究会の討議が深まるのはよいが、時間内に収まる運営方法の工夫が必要である。（2月の小学校の研究会は、時間を意識して運営することができた。）
- ・児童生徒の全体像を見るために幅広く授業を参観したい人、一つの授業を詳しく観察したい人がおり、どちらの人でも話し合いに参加できるような研究会にすることが難しい。授業改善の視点も大事だが、交流研究会の回数も少なくなるので、授業者に負担がかからないよう、以前のように普段の授業を参観し、情報交換の話し合いをする形でも充分という声もあった。
- ・2月の授業公開は、行事と重なり忙しすぎた。互いに授業内容を相談したり検討したりする時間が確保できず、授業者任せになってしまった。もう少し負担感のない研究方法を考えていきたい。

（ブロック長 山元 和香子）